

令和5年度府中市立府中第十小学校授業改善推進プラン（学校全体の取組）

1 現状及び課題等

(1) 学習改善の視点（児童の学び方）

- ①主体的な学び（指示を聞いて学習するが、見通しをもって自分で学習することが苦手である。）
- ②意味のある交流活動（交流のための交流が多い。）
- ③学習内容の定着（単元終了時にはできていた問題も、時間が経つとできない。問題の意味が読み取れない。）

(2) 指導改善の視点（教師の指導方法）

- 熱心な指導（教師主導の授業）から見守る指導（児童主体の授業）への改善
 - ・教員が説明的に指導する場面が多い。
 - ・ICTの活用は、教員がビックパッドに提示することが主であり、児童が学習ツールとして活用するまでには至っていない。

2 学校全体で目指す授業像

(1) 目指す児童の学びの姿

- めあてや見通しをもって、自分で学習課題を解決する。学習の振り返りをし、次の学びに生かす。
- 友達との交流（トリオ、学級全体）で、自分の考えを広げたり、深めたりする。
- 間違えた問題や、時間が経って忘れてしまった問題の復習を繰り返す。

(2) 目指す授業像

- 問題解決的な学習の充実
 - ・①教員が説明する場面
 - ②児童が問題を解決する場面
 - ③習熟を図る場面 を意識して授業を行う。
 - ・上記のうち、②③の時間を確保する。
- 児童の状況を把握し、よさを見つけて褒める。

3 学校全体で取り組む授業改善の具体的な取組

(1) 各教科における授業改善のポイント【全学年共通】

国語	○「読むこと」に重点を置く。 ・音読、黙読の時間を確保する。 ・説明的文章では①を端的に行う。 ・文学的文章では②の時間を確保する。	社会	○問題解決的な学習を基本とし、②の時間を確保する。②の中で、友達との交流を行う。 ・多様な調べ方（人、見学、タブレット）を取り入れる。
算数	○基礎的な事項の習熟のために、③の時間を確保する。 ○文章問題は、簡単な数や日常生活の場面に置き換えて立式できるようにする。	理科	○問題解決的な学習を基本とし、②の時間を確保する。 ・実験を行う学習では、予想（仮説）や結果、考察を学級やグループで共有する。
生活	○児童がめあてを理解し、活動を楽しめるようにする。②の時間を確保する。 ○活動を通した気づきを発信させる。	音楽	○歌唱や演奏の楽しさを味わわせる。 ○発達段階に応じて、アプリ等を活用した演奏や作曲などに取り組みさせる。
図画工作	○作品づくりの楽しさを味わわせる。 ○発達段階に応じて、アプリ等を活用した製作や鑑賞に取り組みさせる。	家庭	○日常生活に生かせるようにする。 ・衣服の調整や家庭の手伝い、消費者教育などは家庭での実践と結び付けさせる。
体育	○運動の楽しさを味わわせ、授業時間以外に運動すること（運動の日常化）へとつなげる。	外国語	○「聞くこと」「話すこと」に重点を置く。 ・学習者用デジタル教科書も活用する。

(2) 児童用タブレット端末の活用【市共通】

★児童自身が「授業でタブレット端末をよく活用している」と回答する児童の割合80%を目指し、以下の活用を図る。 ○調べる活動 ○記録（ノート、ワークシート） ○発信（交流、発表） ○習熟